

<生徒指導提要 改訂から>

- チーム支援による組織的対応深刻化、多様化、低年齢化する生徒指導の諸課題を解決するためには、**学級・ホームルーム担任が一人で問題を抱え込まず**に生徒指導主事等と協力して、**機動的連携型支援チームで対応**することが求められている。
- 児童生徒と直接関わることが多い学級・ホームルーム担任は、学級・ホームルーム経営を充実させることはもとより、**同僚間で相互に学び合う**ことが求められている。教職員同士が支え合う学校環境を形成することによって、校内の情報共有やビジョンの共有、さらには生徒指導や教育相談、進路指導等の充実が図られ、結果的に児童生徒に肯定的な影響を及ぼすことが可能になる。

<教師のための生徒指導ハンドブック～仙台市教育委員会～>

- 問題発生時などの面談は複数で対応する。
家庭訪問や学校での面談対応においては、複数の教員で行なうことが賢明である。あらかじめ面談前に教師同士で打合せを行ない、想定される内容や、お互いの役割分担などを明確しておくことが大切である。

★ チーム担任制の導入によって、

- 複数の様々な視点で生徒を見ることにより、小さなサインや変化に気付くことができる。
- 複数の担任とかわることで、生徒がこれまで以上に担任の様々な価値観に触れることが多くなる。
- 可能な限り担任の性別に関係なく、複数の相談窓口を生徒に提供することができる。
- 教員同士が同じ立場であることから、学級・学年運営について熟議を行なうことができる。
- 生徒の特性や保護者の要望に合わせて対応する担任を選択することができ、意見や要望に寄り添える体制を構築できる。
- 事務処理等を分担することができ、働き方改革を推進する。

<短学活・給食>

- スタート時は、生徒がチーム担任制に慣れるために、日ごとに替わることが望ましい。交代日数の間隔については様子を見ながら、相談していきたい。給食については、二人で教室に入ることも可としたい。また、短学活の内容に応じて、複数で指導に当たることも可としたい。

<学級づくり>

- チームで相談を行なった上で学級開きから始める。日誌や掲示物などは分担して作成する。

<学活・総合的な時間>

- 全員で対応することが基本となる。学習内容によっては、主担当者が全てを担当したり、チームで対応したりすることも可能である。

<道徳>

- 10個目の教科として、教科担任制を取り入れる。これまでのように全学年が同じ校時に実施となるとは限らない。月曜日の1校時に入ることも可能。

<教育相談>

- チームで分担する。生徒の希望によっては、別の担任への相談もできることとする。

<個人懇談>

- 2名以上で面談に当たる。

<入学式・卒業式>

- チーム担任制であるため、全員が生徒とともに入場する。並び方は学年に判断となる。呼名については打合せの上、分担する。

<通知表・指導要録の作成>

- チームで分担して作成する。

1 現在の定山溪小・中学校における担任体制について

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
●		●		●		●●	●●	●●●

【小学校】

- 従来どおりの学級担任体制である。

【中学校】

- 令和6年度からチーム担任制を導入し、全員が担任として学級経営に当たっている。

2 後期課程におけるチーム担任制の利点について

- 複数の様々な視点で生徒を見ることにより、小さなサインや変化に気付くことができる。
- 複数の担任とかかわることで、生徒がこれまで以上に担任の様々な価値観に触れることができる。
- 可能な限り担任の性別に関係なく、複数の相談窓口を生徒に提供することができる。
- 教員同士が同じ立場であることから、学級・学年運営について熟議を行なうことができる。
- 生徒の特性や保護者の要望に合わせて対応する担任を選択することができ、意見や要望に寄り添える体制を構築できる。
- 事務処理等を分担することができ、働き方改革を推進する。

3 札幌市の教員採用状況などについて

【小学校】

- 小学校・幼稚園の合格者数は、190名（前年度205名）であり、2校の分校を含む198校に対して、計算上、毎年1名の新採用者が配置されることになっている。

【中学校】

- 中学校・高等学校の合格者数は、121名（前年度115名）であり、12名程度が高等学校に配置される予定。2校の分校を含む98校に対しては、毎年1名の新採用者が配置されることになっている。
- **定中においては、R4からR6にかけて毎年1名の新採用者が着任している。**

【札幌市における教職員の精神疾患による病気休職者数】R5

- 校種別では、小学校63名、中学校25名、高校3名、特支3名となっており、教職員全体に占める割合は1.07%で全国平均を大きく上回っている。休職から退職につながるケースも少なくない。

4 前期課程におけるチーム担任制の導入について

- 後期課程で実施されている現状と札幌市の教員採用状況などを踏まえて、**前期課程においてもチーム担任制を導入したい。**

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
●●	※担任外は学年付				●●	●●	●●	●●●

【想定される効果】

- 学級経営等に関して、互いに助言することができる。
- チームで教科を分担して、授業を実施することも可能となり、得意教科等で専門性を発揮できる。
- チームで期末懇談を実施し、複数で保護者と面談を行なうことができる。